西暦　　年　　月　　日 提出

|  |  |
| --- | --- |
| 申請授業科目 | 国内 / 海外、　　長期 / 短期　（それぞれどちらかを選択） |
| インターンシップ対象期間（事前/事後期間も含む） | 西暦　 年 月 日　～　　 年 月 日　（計　　　日） |
| インターンシップ参加期間 | 年 月 日　～　 　 年 月 日 |
| 学生氏名 |  | 所属研究科 |  | 学年 |  |
| 指導教員名 |  | 指導教員への実施報告・確認 |  未 / 済 |
| 受入機関名 |  | 受入担当者氏名 |  |
| 受入機関による【体験記】欄のチェック (必須)※許可を受けたメールのやりとりを提出すること | 外部公開 可 / 否 |
| * インターンシップ参加期間終了後４週間以内にHW教務に提出(office-*n* @humanware.osaka-u.ac.jp、for *n*期生)
* 枠を変更しない（申請書pdfを参照すること）。図表を用いても良い。
* インターンシップ先が二か所の場合は、インターンシップ先ごとに本報告書を提出すること。
* 海外インターンシップの場合は、以下の内容を英語で記述すること。
* 本報告書とは別途、口頭発表、別用途での掲載文書依頼などを課すこともある。
* インターンシップ体験記はHWIP のウェブサイト (外部公開)，大阪大学の広報などに使用する可能性があります．大阪大学において公開されること前提として記載してください．使用する際には連絡しません．
* 本報告書に記載された文章は，研究内容に関わることは除き，HWIP の報告書や広報資料に使用することがあります．使用する際には連絡しません．
 |
| インターンシップ研修内容（海外インターンシップの場合は英語で記入） |
| [概要] ※ 研修内容について、簡潔にまとめて記述してください。(和文400字程度)【この赤い文字の部分は作成時 削除してください。】* 第三者には見せず、HWの関係教職員がインターンシップ活動について審査するために用いる文章です。関係教職員とは言え全てを伝えて良いわけでは無いので、知財に関わることなど守秘義務に注意した上で、研究内容も含めて活動の内容がわかるように記述してください。
* 研究内容に関係するものは記載禁止/撮影禁止の場合もありますので、許可を取ったもののみ記載/掲載してください。研究内容を記載できない場合は、その旨を記載してください。
* 準備期間における活動も含めて、どのようなテーマに取り組み、その結果どのような経験を積み、自身が成長できたかを明確にしてください。
* 枠を変更することは禁止です、図表を用いても構いません。
* オンライン実施(全期間or一部期間)の場合は、どのように報告や相談、コミュニ―ションをとったか、また、日々の勤務承認をどのように行ったか具体的に記載してください。
 |
| [詳細] |
|  |
| インターンシップ体験記　（海外インターンシップの場合は英語で記入） |
| 【この赤い文字の部分は作成時 削除してください。】* 枠を変更することは禁止です(2ページ)、図表を用いても構いません。
* ここでの記載内容もインターンシップ活動の審査対象です。
* インターンシップ先に第三者に公開されることも含めて内容の許可を得てください。(企業名を出さない、固有名を出さない等許可を得られる範疇で記載してください)
* 本体験記は今後インターンシップに参加する後輩への参考資料として、またホームページなどで第三者にも公表されることを前提に記載してください。
* 誰にでも活動内容がわかるようにアウトリーチを意識して、下記の観点に注目して記載してください。
* 準備期間中に学んだこと、遭遇した課題
* インターンシップの目的や得た知識。例えば、研究開発の進め方や方針の決め方など
* 同僚・上司・教員とのとコミュニケーションについて学んだ点や気づいた点
* 成長したポイントや達成できなかった課題、それらを今後にどう生かすか
* 研究室とは異なる分野、業界で働いたことで得た体験。（良かったことや大変だったこと）
* 週末の活動を含め、宿泊、食事、治安、物価などの現地での日々の生活について
* その他、インターンシップの体験から学んだ重要だと思われること。例えば、インターンシップにおける積極的な活動から博士人材として自らが成長できたと思うこと
 |
| インターンシップ体験記　（続き） |
|  |